

	ゼミナール名	ゼミナール III (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、報告会で発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最終的には執筆した論文を報告会で発表する。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5時間程度)。 なお、夏季休暇中に調査活動を行いデータを採取する予定である。
履修条件	3年次までに「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得しているもの。 <b>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</b>
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001. 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会, 2012. その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業論文 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	データの整理
第2回	研究の成立する要件	第18回	データ入力
第3回	問題意識の明確化	第19回	データ分析
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究ノートの作成①（構成）
第5回	研究テーマの報告会①（第1グループ）	第21回	研究ノートの作成②（各章の内容）
第6回	研究テーマの報告会②（第2グループ）	第22回	中間報告会①（第1グループ）
第7回	研究計画の策定①（仮説の設定）	第23回	中間報告会②（第2グループ）
第8回	研究計画の策定②（研究方法の選択）	第24回	中間報告会③（第3グループ）
第9回	研究計画の策定③（先行研究）	第25回	卒業論文の執筆①（文章の表現）
第10回	研究計画の策定④（計画の適切性）	第26回	卒業論文の執筆②（図表の整理）
第11回	研究計画の報告会①（第1グループ）	第27回	卒業論文の執筆③（専門用語）
第12回	研究計画の報告会②（第2グループ）	第28回	卒業論文の執筆④（注・引用文献）
第13回	研究計画書の作成	第29回	卒業論文報告①（第1グループ）
第14回	研究のマナー	第30回	卒業論文報告②（第2グループ）
第15回	事前調査の実施	第31回	卒業論文報告③（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3時限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	卒業後の進路に応用するための観光学
ゼミの到達目標	観光学を卒業後に様々な場面において応用する方法を理解し、「観光とは何か」を自分の言葉で説明できるようになる。
ゼミの概要	<p>観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。これまで学んできた観光学の「総仕上げ」をすることがこのゼミナールでの1年間のミッションです。</p> <p>4年生にとって最初に重要なのは、希望する就職先から内定を取ること、そして卒業後の職業に資する実力をつけることです。そこで、ゼミナールⅢ(観光学)は、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで、卒業後の進路に応用するためのさまざまなツーリズムの研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります、積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミナールの課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体験ゼミナールに参加すること。就職活動などで参加できない場合は個別に相談すること。</li> <li>2. 観光について実践的に学ぶ意欲があること。</li> <li>3. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。</li> <li>4. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。</li> </ol>
テキスト	適宜資料をポータルサイトで配布します。(特定のテキストは使用しません)
参考文献・資料	ゼミナールの時間およびポータルサイトで適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%)
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 1時限(9:00~10:30)</p> <p>毎週木曜日 2時限(10:40~12:10)</p>
学生へのメッセージ	<p>ゼミナール担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに研究しています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも同様に重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んできた!」と堂々と語れるように、観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事などの「楽しいグループワーク」もたくさん行いたいです。大学生活最後の1年間、相手をいたわり一緒に楽しみ喜びを分かち合えることのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション／研究倫理教育	第16回	後期オリエンテーション
第2回	プレゼンテーションの方法1	第17回	研究課題の中間報告Ⅰ
第3回	プレゼンテーションの方法2	第18回	研究課題の中間報告Ⅱ
第4回	研究課題のディスカッション1-1	第19回	論文の書き方
第5回	研究課題のディスカッション1-2	第20回	観光学の学術研究2-1
第6回	観光学の学術研究1-1	第21回	観光学の学術研究2-2
第7回	観光学の学術研究1-2	第22回	研究課題のディスカッション2-1
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第27回	研究課題のディスカッション2-2
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第24回	観光学の学術研究2-3
第10回	総合学習	第25回	観光学の学術研究2-4
第11回	観光学の学術研究1-3	第26回	研究課題のディスカッション2-3
第12回	観光学の学術研究1-4	第27回	研究課題のディスカッション2-4
第13回	プレゼンテーションの実践1	第28回	研究課題の発表1
第14回	プレゼンテーションの実践2	第29回	研究課題の発表2
第15回	前期の振り返り	第30回	後期の振り返り
		第31回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民事法）		
	ゼミ担当者名	應本 昌樹（おうもと まさき）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民事法（民法・商法など）における解釈上の問題について研究する。
ゼミの到達目標	民事法の基本的な知識と法解釈の考え方が身についている。
ゼミの概要	<p>民事事件の判決文や民事法分野の論文を読み、主な解釈上の論点について、学説や実務における議論の状況を知る。</p> <p>各参加者に、前期・後期にそれぞれ2回ずつをめどに研究報告をしてもらい、これをもとに全員で討論する。</p> <p>各参加者が、調査結果をまとめて、考察のうえ、最終的な研究成果を小論文にまとめる。</p> <p>参加者の希望などにより、内容・進め方などを変更することがある。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：判決文や論文を、必要に応じ図書館などで探して、よく読み込む（1.5時間）。</p> <p>復習：ゼミナールでの議論を踏まえて、これらを読み返し、理解を深める（1.5時間）。</p> <p>そのほか、報告を担当する回には、調査結果をまとめて報告用レジュメを作成する。</p>
履修条件	<p>債権総論、債権各論および会社法のうち、2科目以上の単位を修得済みであること。</p> <p>六法を必ず持参すること。</p> <p>私語を慎み、授業に集中すること。許可なく携帯端末などの操作をしないこと。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献・資料	随時、参考文献を紹介し、適宜、資料を配布する。
成績評価の方法	<p>参加状況（ゼミナールでの報告、議論など）を75%、定期試験を25%とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日13:00～14:30・木曜日13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>法律を深く理解するためには、裁判例や文献を読みこなす力が欠かせません。</p> <p>こうした力は、学術研究だけでなく、仕事で法律問題を扱う際にも大いに役に立ちます。</p> <p>できるだけ多くの判決文や論文にあたって、少しずつ馴染んでいきましょう。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育、民事法の知識	第17回	民事法解釈の考え方
第2回	裁判例研究(1)	第18回	文献講読(1)
第3回	裁判例研究(2)	第19回	文献講読(2)
第4回	裁判例研究(3)	第20回	文献講読(3)
第5回	裁判例研究(4)	第21回	文献講読(4)
第6回	裁判例研究(5)	第22回	文献講読(5)
第7回	裁判例研究(6)	第23回	文献講読(6)
第8回	裁判例研究(7)	第24回	文献講読(7)
第9回	裁判例研究(8)	第25回	文献講読(8)
第10回	裁判例研究(9)	第26回	文献講読(9)
第11回	裁判例研究(10)	第27回	文献講読(10)
第12回	裁判例研究(11)	第28回	文献講読(11)
第13回	裁判例研究(12)	第29回	文献講読(12)
第14回	裁判例研究(13)	第30回	文献講読(13)
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (社会政策)		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保障制度や労働法制」に関して概略的に理解した後に、ゼミ研究活動を進めます。そして、その成果がみなさんの職業生活において生かせるようになることを目標とします。
ゼミの概要	日本の「社会保障制度」と「労働法制」について概観して行きます。その後、テーマ別に研究活動を進め、プレゼンテーションの準備をします。
授業時間外の学習	各自のゼミ研究のテーマに沿って研究活動を進めてください。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況(50%)、ゼミ研究活動(25%) プレゼンテーション(25%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目(13:00~14:30)・木曜日4時間目(12:40~16:10) ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。 食事会(焼肉!寿司!)で交流を図りましょう!!

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (財務会計)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記2級、税理士簿記論、宅建士、FP等の資格取得を目指します。
ゼミの到達目標	就活のための準備・各自の資格取得に向けて勉強をする。
ゼミの概要	各学生の目標にそって各自がその資格取得に取り組む。
授業時間外の学習	オフィスアワーの時間を利用して問題演習を実施する。
履修条件	自分の目標に向けて真面目に取り組める学生
テキスト	各学生の取得希望資格によりテキストを指定します。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4時間目・金曜日4時間目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画（税理士簿記論の勉強計画の一例）				
第1回	研究倫理教育・面接	第17回	総合計算問題集基礎編	個別論点(1)
第2回	個別計算問題演習Ⅰ 簿記一巡・商品売買	第18回	総合計算問題集基礎編	個別論点(1)
第3回	個別計算問題演習Ⅰ 債権・債務・現金預金	第19回	総合計算問題集基礎編	個別論点(2)
第4回	個別計算問題演習Ⅰ 手形・貸倒引当金	第20回	総合計算問題集基礎編	個別論点(2)
第5回	個別計算問題演習Ⅰ 人件費・有形・無形固定資産	第21回	総合計算問題集基礎編	個別論点(3)
第6回	個別計算問題演習Ⅰ 割賦販売・株主資本	第22回	総合計算問題集基礎編	個別論点(4)
第7回	個別計算問題演習Ⅰ 税金・社債・有価証券	第23回	総合計算問題集基礎編	個別論点(5)
第8回	個別計算問題演習Ⅰ キャッシュフロー・リースその他	第24回	総合計算問題集応用編	個別論点(1)
第9回	個別計算問題演習Ⅱ 減価償却・退職給付会計	第25回	総合計算問題集応用編	個別論点(2)
第10回	個別計算問題演習Ⅱ 外貨建取引等	第26回	総合計算問題集応用編	個別論点(2)
第11回	個別計算問題演習Ⅱ 製造業会計・工事契約	第27回	総合計算問題集応用編	個別論点(3)
第12回	個別計算問題演習Ⅱ 研究開発費等・本支店会計	第28回	総合計算問題集応用編	個別論点(4)
第13回	個別計算問題演習Ⅱ 特殊商品売買	第29回	総合計算問題集応用編	個別論点(5)
第14回	個別計算問題演習Ⅱ 帳簿組織・推定簿記	第30回	総合計算問題集応用編	個別論点(6)
第15回	個別計算問題演習Ⅱ 社債・新株予約権・繰延資産	第31回	面接	
第16回	定期試験・面談	第32回	定期試験	

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (安全保障論)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障の重要課題を研究する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。</li> <li>8 国際人道法について概要を理解している。</li> <li>9 安全保障政策について自己の意見を述べることができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初はゼミナールⅠ及びⅡのふりかえりも入れつつ、安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> <li>・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。</li> </ul> <p>(予習 2時間程度、復習 2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生生活入門Ⅰ・Ⅱ（または総合科目Ⅰ・Ⅱ）の単位を修得済みであること。</li> <li>②国際関係論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策論、地域政策論、安全政策論、民法総則、観光法規、観光社会学、社会調査の仕方、国際研究入門、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、国際法のうちいずれかの単位を修得済みであること。</li> <li>③第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。）。</li> <li>④履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであることが望ましい。</li> <li>3 ゼミナール内は討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書（令和5年版）、外交青書（令和5年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全

	保障のポイントがよくわかる本』(亜紀書房)、西原正『わかる平和安全法制』(朝日新聞社)、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』(亜紀書房)、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』(かもがわ出版)、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』(ウエッジ)
成績評価の方法	授業への参加状況(報告・質疑応答など)50%、ゼミ論文50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40~16:10・水曜日14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、毎回安全保障に関するトピックの討議に並行して、適時の論文指導を行います。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス(研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について) 安全保障のまとめ(ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり)	第17回	論文作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	今日の国際関係①(概観)	第18回	文献検索・中間指導(グループ1)
第3回	今日の国際関係②(地域ごと)	第19回	文献検索・中間指導(グループ2)
第4回	防衛政策①((ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり)	第20回	文献検索・中間指導(グループ3)
第5回	防衛政策②(テーマの抽出・討論①)	第21回	中間報告(グループ1)
第6回	防衛政策③(討論②)	第22回	中間報告(グループ2)
第7回	国民保護政策①(概観)	第23回	中間報告(グループ3)
第8回	国民保護政策②(討論)	第24回	個別指導①
第9回	国際人道法①(ジュネーブ条約概観)	第25回	個別指導②
第10回	国際人道法②(文民条約)	第26回	卒業論文ゼミナール発表(グループ1)
第11回	国際人道法③(捕虜条約)	第27回	卒業論文ゼミナール発表(グループ2)
第12回	国際連合の役割	第28回	卒業論文ゼミナール発表(グループ3)
第13回	紛争の平和的解決手段(討議)	第29回	特別講義①(ゲストスピーカー)
第14回	平和安全法制①(概観)	第30回	特別講義②(ゲストスピーカー)
第15回	平和安全法制②(我が国の平和協力の在り方)	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナール III 【行政学・政治学（地方自治含む）】		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 4限	単位数	2単位
	実施方法	<input type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input checked="" type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。ゼミナール I, II, III を通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)、政治(学)、地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文を完成させること。卒業要件を達成しつつ、自ら進路を選択し、卒業すること。</p>
ゼミの概要	<p>➤ ゼミナール I および II を経てゼミ論作成も佳境にさしかかっているはずですが、就職活動や資格試験でたいへんな時期でもありますが、それでもノースアジア大学で勉強した証を形にしましょう。 ➤ ノースアジア大学では卒業試験に合格しなければ卒業できません。本ゼミは卒業試験科目に合致しませんが、卒業試験対策に取り組み、合格を勝ち取りましょう。 ➤ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。</p>
授業時間外の学習	<p>➤ 文部科学省の大学設置基準第 21 条に基づき事前学習(1.5 時間) および事後学習(1.5 時間)。 ➤ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。</p>
履修条件	<p>※ゼミ II 寺迫ゼミ所属(=繰り上がり) 学生以外は必ず、第 1 回(お試し)ゼミに、成績表持参の上、必ず出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。その際、以下の条件のいずれかを満たすこと。上限を超えれば選抜します。 ➤ 「行政学 I・II」「公共政策論」「都市政策論」「判断推理 I・II」の全てを履修済みであること。 ➤ 国家試験等センターに所属し、公務員・資格試験対策に取り組んでおり、面識があること。</p>
テキスト	<p>➤ ゼミ参加メンバーと調整して決定</p>
参考文献・資料	<p>『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編(文眞堂、2021) 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根(ミネルヴァ書房、2022) 『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編(成文堂、2016) 『〈国際シンポジウム〉住民参加とローカル・ガバナンスを考える』(宮森征司・金晃徳、信山社、2023) 『行政学[新版]』(曾我謙悟、有斐閣アルマ、2022) 『はじめての行政学[新版]』(伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣スタジオ、2022) 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編(慈学社、2021) 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン(成文堂、2021) 『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房、2021) 『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室、2021) 『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版、2021) 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann(Springer VS, 2020) 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis,』Paul Pierson(Princeton University Press, 2004) 『行政学[新版]』真淵勝(有斐閣、2020) 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉(一藝社、2019) 『日本の地方政府』曾我謙悟(中公新書、2019)</p>

	『行政学講義』金井利之（ちくま新書、2018） 『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学 [第2版]』外山公美編（弘文堂、2016） 『比較政治学入門』岩崎正洋（勁草書房、2015） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『都市の再生を考える（第1巻）都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis』Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『行政学 [新版]』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%）</li> <li>▶ レポートあるいは試験（35%）</li> </ul> ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限および木曜日 4限
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「地方創生論」「都市政策論」参照）、</li> <li>▶ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、</li> <li>▶ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」参照）、</li> </ul>

授業計画			
第1回	オリエンテーション： 研究倫理教育(全学共通テーマ)	第17回	インターミッション：研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について(全学共通テーマ)
第2回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション①	第18回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑦
第3回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション②	第19回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑧
第4回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション③	第20回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議①
第5回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション④	第21回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議②
第6回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況①	第22回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議③
第7回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況②	第23回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議④
第8回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況③	第24回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション①
第9回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況④	第25回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション②
第10回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑤	第26回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション③
第11回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑥	第27回	各ゼミ論文の完成プレゼンテーション④
第12回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑦	第28回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望①
第13回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑧	第29回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望②
第14回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑥	第30回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望③
第15回	卒業試験および公務員・資格試験等の状況⑦	第31回	ゼミナール III のまとめと卒業後への展望④
第16回	定期試験あるいはゼミ論文中間報告	第32回	定期試験あるいはゼミ論文講評

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (政治学・行政学)		
	ゼミ担当者名	中村逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	政治学・行政学について幅広く学ぶため、 <b>島田明夫編著『人口減少社会に対応したまちづくり法制：東北大学公共政策大学院ワークショップの研究』</b> など、政治や社会を対象にした文献を二冊読み進める予定です。 毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形でゼミを進めます。テキストは専門書ではなく一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。 後期にはゼミ論文の作成に取り組んでもらう予定です。
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと (2.0時間程度)。新聞などに日々目を通しておくこと (2.0時間程度)。
履修条件	以下のいずれかの条件を満たしていること。 ①「政治学」、「西洋政治思想史」、「生活と政治」の単位をすべて修得していること ②担当教員の「ゼミナールⅠ」または「ゼミナールⅡ」の単位を修得していること
テキスト	島田明夫編著『人口減少社会に対応したまちづくり法制』東北大学出版会、2022年。
参考文献・資料	ガイダンスの際に紹介します。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢 (60%)、レポートまたは試験 (40%) によって評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しください。 (2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう。 (3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。 (4) 公務員試験の勉強についてある程度は助言ができると思います。 (5) ゼミナール発表会は法学部のものに参加しますので、注意してください。

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	人口減少社会とまちづくりの問題点① 『人口減少社会』
第3回	研究倫理、ゼミ内の役割分担	第19回	人口減少社会とまちづくりの問題点② 『人口減少社会』
第4回	社会や政治に関する文献の購読①	第20回	立地適正化計画 『人口減少社会』
第5回	社会や政治に関する文献の購読②	第21回	映像視聴
第6回	社会や政治に関する文献の購読③	第22回	現地視察・ヒアリングを通して見えたまちづくり の課題（『人口減少社会』）
第7回	個人面談	第23回	ゼミ論文についての説明、個人面談
第8回	社会や政治に関する文献の購読④	第24回	今後のまちづくり 『人口減少社会』
第9回	社会や政治に関する文献の購読⑤	第25回	まちなかの空き地・空き家の利活用 『人口減少社会』
第10回	社会や政治に関する文献の購読⑥	第26回	エリアマネジメント 『人口減少社会』
第11回	社会や政治に関する文献の購読⑦	第27回	ゼミ論文作成状況のフォロー、個別指導
第12回	映像視聴	第28回	自然災害に強いまちづくり① 『人口減少社会』
第13回	社会や政治に関する文献の購読⑧	第29回	自然災害に強いまちづくり② 『人口減少社会』
第14回	社会や政治に関する文献の購読⑨	第30回	ゼミ論文の発表①
第15回	社会や政治に関する文献の購読⑩	第31回	ゼミ論文の発表②
第16回	レポート（または定期試験）	第32回	レポート（または定期試験）

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (人間科学)		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児 (にしまき じょうじ)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「いのち」について -いのちと経済との関係-
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身、ならびに他人の「いのち」を見つめる視点を獲得できる。</li> <li>・いのちと経済の関係から生ずる諸問題を説明できる。</li> <li>・自分の生き方を見つめる視点を養うことができる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>生きることの根源とされる「いのち」とは、いったい何なのだろうか。また、「いのちに値段はつけられない」などと言われたりもするが、実際の所、さまざまな場面で「いのち」にその価値・値段がつけられ、いのちが市場経済に巻き込まれている現状がある。</p> <p>このゼミナールⅢでは、「生」と「死」にまつわるさまざまな問題を、「自己決定の概念」(自分に関連することは自身の意志で決定する)を柱にして考え、併せて、いのちと経済との関連も考えていく。</p> <p>つねに私たちの身近にある生と死についての諸問題を、ゼミ生各自が「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。</p> <p>また、いのちにまつわる問題を一緒に考え、ディスカッションを積極的に行っていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているため、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、卒業論文完成に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習するにはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のいのち」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を直接本教員に表明し、面談を受けることが、第二条件である。</li> <li>・本ゼミナールでは、卒業論文を執筆することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。</li> <li>・卒業論文にまつわる発表が数回義務づけられ、また、ディスカッションの際には積極的に議論に参加することが求められる。</li> </ul>
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価を下す。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 10:40~12:10 木曜日 10:40~12:10</p> <p>事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。</p>

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会①
第3回	オリエンテーション： 人間のいのちと金銭をめぐる問題	第19回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会②
第4回	人間のいのちをめぐる問題の諸相	第20回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会③
第5回	重度障害新生児をめぐる：パーソン論の問題	第21回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会④
第6回	卒業論文完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第22回	自己決定を超える問題
第7回	医療従事者と患者の関係： インフォームド・コンセントとは	第23回	脳死からの臓器移植
第8回	生き方の自己決定とは	第24回	資源としてのいのち
第9回	生き方の自己決定と尊厳ある死	第25回	脳死と人の死
第10回	世界に見る死の自己決定：安楽死について	第26回	自分の生き方とは
第11回	死を決定する権利をめぐる	第27回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会①
第12回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①	第28回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会②
第13回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②	第29回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会③
第14回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会③	第30回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会④
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。
ゼミの到達目標	<p>このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。</li> <li>2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。</li> <li>3. 文化や文学をテーマにした研究を行い、論述や口頭で発表することができる。</li> </ol>
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。</li> <li>2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。</li> <li>3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。</li> </ol>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ゼミナールⅠ・Ⅱを履修し、単位を修得した人。または、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界文学としての日本文学」のいずれかのうち、2科目以上を履修して単位を修得していること。</li> <li>② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナールの1回目・2回目もしくは指定された時間）に担当教員と面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u></li> <li>③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。</li> </ol>
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年）他
成績評価の方法	<p>【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。</li> <li>2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。</li> </ol> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 13時00分～14時30分 / 木曜日 13時00分～14時30分 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	「学生時代の友人は生涯の友人である」という言葉があります。悔いのないよう、学修や就活に励むのと同時に、皆で素晴らしい思い出をつくっていきましょう。
----------------------	---

授業計画			
第1回	表現文化と研究倫理	第17回	研究を進めるために
第2回	キャリア・プランニングⅠ	第18回	キャリア・プランニングⅡ
第3回	履歴書・エントリーシート対策について	第19回	プレゼンテーションの技術Ⅱ
第4回	話す技術・敬語・マナーを磨こう	第20回	パワーポイント作成の技術
第5回	筆記試験対策について	第21回	プレゼンテーションの実践Ⅱ
第6回	面接試験対策について	第22回	プレゼンテーションの振り返り
第7回	オンライン面接試験対策について	第23回	論文を読むⅡ
第8回	グループ・ディスカッション対策について	第24回	レポートから論文へ
第9回	研究テーマについて	第25回	アカデミック・ライティングのスキル
第10回	絶景をめぐる世界遺産の旅	第26回	文化研究の方法
第11回	イギリスの歴史と文化	第27回	小説を読む技法
第12回	キリスト教と世界遺産	第28回	論文を読むⅢ
第13回	論文を読むⅠ	第29回	聖典と呼ばれる小説または戯曲を読む
第14回	プレゼンテーションの技術Ⅰ	第30回	文学作品の主題とその魅力
第15回	プレゼンテーションの実践Ⅱ	第31回	世紀を越えて読み継がれる文学
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	花田富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ    □遠隔のみ    □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	法律・経済を包摂する社会学、社会文化学関係のテーマを設定し、卒業研究論文としてまとめる。
ゼミの到達目標	各人がテーマを設定し、資料を収集しながら、資料批判も行い、自らが課題解決に向けて努力すること。
ゼミの概要	自ら自由にテーマを設定し、研究計画の立案、計画の修正、文献の調査と読み込み、研究概要の構成などを執筆し、中間発表を行います。中間発表後、修正などを行い、最終的に卒業研究論文としてまとめ、発表してもらいます。
授業時間外の学習	卒業研究論文をまとめるには、教室の講義だけでは到底不可能です。図書館や各種資料館などにも出向き、資料を収集します。主体的で積極的な態度が求められます。
履修条件	特になし。
テキスト	特になし。
参考文献・資料	授業時に指示する。
成績評価の方法	毎回の出席を重視する。授業時の提出課題を重視する。これらを総合評価して換算する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4限目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	遅刻・欠課は必ず連絡できる責任感と積極的に授業に取り組む真摯な態度を持ってもらいたい。4年生ゼミなので、学習面だけでなく、就職活動とともに、生活面での指導も行います。充実した学生生活となるよう真剣に臨んで下さい。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	論文作成法（1）	第18回	中間報告発表会 1
第3回	論文作成法（2）	第19回	中間報告発表会 2
第4回	研究テーマの設定に関する面談	第20回	中間報告発表会 3
第5回	研究テーマに関する調査（1）	第21回	卒業研究論文作成指導 1
第6回	研究テーマに関する調査（2）	第22回	卒業研究論文作成指導 2
第7回	研究テーマに関する概要と計画の発表（1）	第23回	卒業研究論文作成指導 3
第8回	研究テーマに関する概要と計画の発表（2）	第24回	卒業研究論文作成指導 4
第9回	研究テーマに沿った資料収集（1）	第25回	卒業研究論文作成指導 5
第10回	研究テーマに沿った資料収集（2）	第26回	卒業研究論文作成指導 6
第11回	研究テーマに沿った資料収集（3）	第27回	卒業研究発表 1
第12回	研究テーマに沿った資料収集（4）	第28回	卒業研究発表 2
第13回	修正した研究計画の発表（1）	第29回	卒業研究発表 3
第14回	修正した研究計画の発表（2）	第30回	卒業研究発表 4
第15回	前期のまとめ	第31回	卒業研究発表 5
第16回	定期試験 レポート提出	第32回	定期試験 卒業論文提出

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（日本経済のマクロ分析Ⅲ）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ    □遠隔のみ    □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を特定しその解決策を探る。4年次の前半は、日本政府の財政赤字を取り上げる。また就活支援に注力する。最終年次なので後半は卒論指導を行う。
ゼミの到達目標	日本経済の最重要な問題点である「日本政府の財政赤字」の実態を明確に理解したうえで、その解決方法を探します。
ゼミの概要	4年次ということで、まず就職活動の支援と、最重要問題の「日本政府の財政赤字」に真正面から取り組みます。この問題についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論して下さい。この1年で、卒論を作成して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。
履修条件	日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、輪番で経済記事の過去1週間のトピックスを報告してもらいます）
パソコン使用について	<b>受講者はかならずパソコンを持参すること。紙での配布は、原則禁止されましたので、資料はポータルサイトに掲示します。また授業でソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。</b>
テキスト	「日本の財政はどうなっているのか」湯本雅氏 岩波書店（予定）
参考文献・資料	「財政危機の深層」小黒一正 NHK出版社 日本経済と財政危機の本質シリーズ8「このままでは、国家財政の破綻は確実！」深澤泰郎、 「日本の財政関係資料（令和3年10月）」財務省、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	未定
成績評価基準	輪読と意見発表と討論（35%）、輪読時のレジュメ（25%）、卒論（40%） 卒業論文の作成が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月中旬とします。それまでに、教員の指導を受けて、理解を得て下さい。
学生へのメッセージ	<b>日本の将来はマクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。</b> また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。 <b>個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。</b>

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	財政総論	第18回	卒論作成指導(ただし、本年は3年次の社会保障と金融政策の問題点を取り上げる可能性あり)
第3回	中央政府の財政活動	第19回	卒論作成指導(同)
第4回	地方政府の財政活動	第20回	卒業論文進捗状況確認
第5回	租税に関する諸問題(1)	第21回	卒業論文進捗状況確認
第6回	租税に関する諸問題(2)	第22回	卒論作成指導(同)
第7回	社会保障制度に関する諸問題(1)	第23回	卒論作成指導(同)
第8回	社会保障制度に関する諸問題(2)	第24回	卒論作成指導(同)
第9回	地方財政に関する諸問題	第25回	卒論作成指導(同)
第10回	公債に関する諸問題	第26回	卒論作成指導(同)
第11回	財政ポジションの健全化を目指して	第27回	卒論作成指導
第12回	中長期の経済財政に関する試算(令和2年1月17日)の検証	第28回	卒論作成指導
第13回	第1回~第12回までのまとめとレポート作成	第29回	卒論作成指導
第14回	レポート作成	第30回	卒論発表
第15回	3年次及び上記も踏まえた卒論テーマ予告	第31回	卒論発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (労働経済・社会保障)		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	地域の労働経済・社会保障についての考察とプレゼンテーション、卒業論文指導、就職活動支援。
ゼミの到達目標	地域経済に関する理解を深め、就職活動や卒業試験対策に活かし、卒業論文作成を行う。
ゼミの概要	卒業論文指導は各自のテーマに沿って話し合いを行い、円滑な作成をサポートする。
授業時間外の学習	図書館などを使って、新聞をよく読むこと。これをベースに、ゼミの時間で意見を交わし合い、理解がより深められるよう努める。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。ゼミナールのメンバー同士での話し合いを積極的に行って、その経験を積み重ねていくことが大切である。
テキスト	特に定めない。
参考文献・資料	『厚生労働白書』各年版 『労働経済白書』各年版 公務員Vテキスト『社会政策』第12版
成績評価の方法	出席状況、ゼミ活動への積極的参加姿勢、提出レポート、卒業論文等から評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 及び 木曜日の16時30分～17時30分
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	出席を重視する。遅刻しないよう努めて欲しい。積極的な活動が出来るよう、お互いに刺激し合い、高め合っていこう。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と活動方針。説明と話し合い。	第17回	卒業試験対策、卒業論文指導
第2回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第18回	卒業試験対策、卒業論文指導
第3回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第19回	卒業試験対策、卒業論文指導
第4回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第20回	卒業試験対策、卒業論文指導
第5回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第21回	卒業試験対策、卒業論文指導
第6回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第22回	卒業試験対策、卒業論文指導
第7回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第23回	ゼミナール大会・予選
第8回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第24回	ゼミナール大会・決勝
第9回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第25回	卒業試験対策、卒業論文指導
第10回	卒業試験対策、卒業論文指導、キャリアセンター訪問	第26回	卒業試験対策、卒業論文指導
第11回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第27回	卒業論文指導
第12回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第28回	卒業論文指導
第13回	卒業試験対策、卒業論文指導、大学祭準備	第29回	卒業論文指導
第14回	卒業試験対策、卒業論文指導	第30回	卒業論文指導
第15回	卒業試験対策、卒業論文指導	第31回	卒業論文指導、今年度を振り返って
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (環境学)		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境、農業、食、自然風景、地域振興等に関する卒業論文を作成する。</li> <li>2. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つつくる。</li> </ol>
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域振興に対する理解を深めます。</li> <li>2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。</li> <li>3. 学術書を念入りに読み、文章を理解し、自分で表現する力を身につけます。</li> <li>4. 卒業論文を執筆し、自分自身の学修の成果を完成させます。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>環境と社会の関係に注目し、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。それによって、自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。ゼミの内容は、①輪読、②研究(卒業論文)の2点です。</p> <p>① 輪読：学術に関する基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。柴山盛生・遠山紘司著『問題解決の進め方』を予定しています。この教科書からは、卒業論文の執筆の方法だけでなく、社会に出たときに役立つものの見方、考え方を学ぶことができます。</p> <p>② 研究：各人(または2人以上のチーム)の興味関心に応じた卒業論文を執筆し、1月までに完成させます。卒業論文は、大学4年間の集大成です。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。</p>
履修条件	<p>次の①、②の条件を全て満たす者としてします。</p> <p>① 8月以降、卒業論文の執筆に専念できる者。</p> <p>② 環境学ゼミナールⅡを履修済みの者に限る。それ以外の場合は、4月7日(金)までに担当教員と個別相談の上、ゼミ所属の承諾を得なければならない。</p>
テキスト	秋光淳生・柴山盛生『問題解決の進め方 新訂』(放送大学教材)(予定)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>卒業論文・研究指導・研究発表(60%)、輪読・試験(40%)</p> <p>卒業論文の執筆が修了の必須条件です。完成は1月中旬とします。それまでに、教員の添削指導を受け、教員による「完成宣言」を1月10日までに取得してください。したがって、卒業論文の初稿を遅くとも10月上旬に提出する必要があります。なお、添削の平均回数は7回、1回の添削と手直しには少なくとも10日間必要です。</p> <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40~16:10、水曜日 14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。このゼミからは、これまで、JA全農、日本郵便、秋田銀行、秋田県信用組合、秋田商工会連合会、生協、秋田県警、EiSU、TDK、山二、共進、ホクエツ秋田、サンコーホーム、秋田土建、日本テクニカルシステム、伊徳、コメリ、マックスバリュ東北、ツルハ、薬王堂、ダイキン、ヨコウン、奥羽運送、秋田トヨペット、秋田ダイハツ、など、多彩な職種・業種への内定者が出ました。</p>

授業計画（環境学ゼミナールⅢ）			
第1回	体験入室 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	研究⑦ 論文紹介① 卒業論文の進捗状況確認
第2回	ガイダンス ゼミの目標	第18回	研究⑧ 論文紹介② 卒業論文の進捗状況確認
第3回	研究① 卒業論文テーマの準備	第19回	研究⑨ 論文紹介③ 卒業論文の進捗状況確認
第4回	研究② 第1次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第20回	研究⑩ 第3次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告
第5回	輪読① 「第1章 問題とは」	第21回	輪読⑨ 「第9章 発想を広げる」
第6回	輪読② 「第2章 問題を見つける」	第22回	輪読⑩ 「第10章 組織での進め方(1)」
第7回	研究③ 卒業論文研究指導	第23回	輪読⑪ 「第11章 組織での進め方(2)」
第8回	輪読③ 「第3章 目標を設定する」	第24回	輪読⑫ 「第12章 組織での進め方(3)」
第9回	輪読④ 「第4章 情報を収集して整理する」	第25回	研究⑪ 卒業論文指導
第10回	研究④ 第2次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第26回	輪読⑬ 「第13章 集団の意思決定とコミュニケーション」
第11回	輪読⑤ 「第5章 数値情報を扱う」	第27回	輪読⑭ 「第14章 解決策を実行する」
第12回	研究⑤ 専門書紹介①（グループA）	第28回	輪読⑮ 「第15章 評価する」
第13回	研究⑥ 専門書紹介②（グループB）	第29回	研究⑫ 卒業論文発表①（グループA）
第14回	輪読⑥ 「第6章 図解化して見る」	第30回	研究⑬ 卒業論文発表②（グループB）
第15回	輪読⑦ 「第7章 分析的に考える」	第31回	研究⑭ 卒業論文発表③（予備日）
第16回	輪読⑧ 「第8章 学習記録と振り返り」	第32回	定期試験